

四つ葉のクローバー

発行所
桐生厚生総合病院 中央検査部
責任者 吉田カツ江

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2009年8月発行

じめじめした梅雨の時期も終わり暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？暑さが本格化してくると**熱中症**の患者さんが急増します。熱中症を予防するには

炎天下に長時間いない

こまめな水分補給

無理な運動、長時間の作業をしない

直射日光を避け、通気性の良い服を着る



等の対策が有効です。熱中症に気をつけて暑い夏を元気に過ごしましょう！

今回の内容は

「**病理検査**で使用する**ホルマリン**の**役割**と**有害性**」

病理検査については「四つ葉のクローバー 第6号」で紹介させていただきましたが、

- 組織検査・・・患者さんから採取した組織（皮膚の一部、胃の粘膜など）や臓器（大腸、肝臓など）について、がんなど悪いところがないか、転移がないか、などを調べる
- 細胞診検査・・・‘たん’‘尿’などからがん細胞がないかを調べる
- 病理解剖・・・不幸にして亡くなってしまった患者さんのご遺体について、病気の進行具合、治療効果、死因などを判断する

などの検査を行なっています。

役割

皆さんは‘ホルマリン’という言葉を目にしたことがあるでしょうか？ホルマリンは養蚕や畜産施設の消毒、病院で使用する器具の消毒剤として、家の壁紙接着剤としてなども利用されてきました。病理検査では「**固定**」と呼ばれる検体処理に使用しています。「固定」というのは、ホルマリンの主成分であるホルムアルデヒドが細胞の蛋白質変性を停止できる作用を利用し、採取したままでは腐ってしまう組織（細胞）をホルマリンにひたすことで採取した組織の状態を維持して検査を行うための処理です。

有害性

ホルマリンは値段も安く様々な用途に使える便利な物質なのですが、人体にとって「**有害**」な物質であることが分かってきました。主な有害性として

- 発ガン性(咽頭癌)**
- ホルマリン蒸気による目、鼻への強い刺激**
- 肝臓、腎臓への障害**
- 化学物質過敏症(シックハウス症候群)**

などがあります。

シックハウス症候群とホルマリン

建物の壁紙接着剤等に含まれるホルマリンは“シックハウス症候群”の原因の一つとされています。

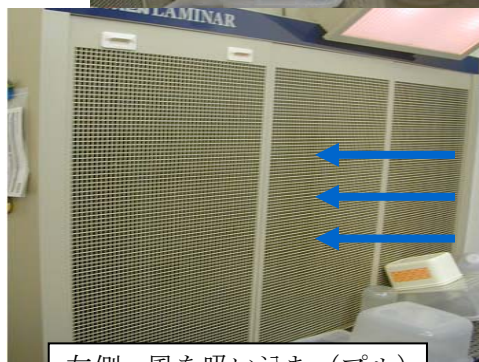
*症状



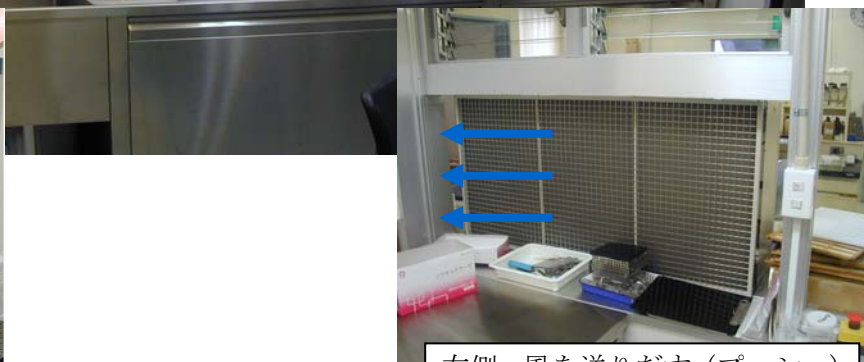
*症状には個人差があります。

ホルマリン対策

ホルマリンは「有害性」ですが病理検査に欠かすことはできません。当院ではホルマリンの「有害性」から職員を守るための対策として、今年5月より病理検査室に**フッシュフル換気装置**を導入しました。



左側：風を吸い込む（プル）



右側：風を送り出す（プッシュ）

右側の装置は大型の扇風機のようなもので**風を一定方向に送り出す役割**をしています。

左側の装置は**空気を一定の速度で吸いこみ配管をとおして屋外に放出する役割**をしています。

この装置を一緒に稼働させると右側から送られた風が左側で吸い込まれることにより**気流**が発生します。

気流により、検査で発生したホルマリン有毒ガスを瞬時に屋外に除去し職員の健康を守っています。

「四つ葉のクローバー」は当院のホームページに公開されていますので、ご参照ください。

ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

担当 病理検査